

社会科

大塚 有将

杉山 綾

寺島 慶子

共同研究者 加藤 隆弘（金沢大学）

1. はじめに

（1）研究背景

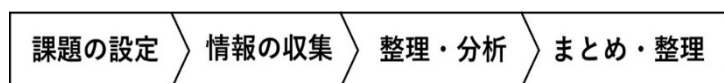
日本が実現させようとしている Society5.0 に関しては、A I の普及による失業者の増加や、創造的で高付加価値を生む仕事と資産性は低い人間側に残る仕事の二極化が進むなど、いくつかの社会問題が発生する可能性が議論されている。そして、それらの問題を解決する手段の一つとして、潜在的な問題を見出し、既存の考えにとらわれることなく、アイデアを広げ、新たな価値を生み出すことができる能力（以下、創造的問題解決能力）を身に付けることが求められている。

学校教育において、創造的問題解決能力を育成できる活動として、「総合的な学習の時間」が位置付けられる。「総合的な学習の時間」の中学校学習指導要領には、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の中に、「主体性」や「創造性」「協働性」「社会参画」「自己の生き方」などが示されており、「創造性」の重要度は増しているといえるだろう。

「総合的な学習の時間」では、探究のプロセス（図1）を通じた「探究的な活動」において、「問題発見・解決能力」の育成が求められており、これは創造的問題解決能力を構成する要素の1つである。また、「総合的な学習の時間」は、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとすることも求められている。

以上の事から、本校では、令和3年度より文部科学省から研究開発学校の指定を受け、「総合的な学習の時間」を創造性の育成に特化し、教科化した「創造デザイン科」を設置することで、創造的問題解決能力の育成を目指している。

図1 「総合的な学習の時間」に実施が求められる探究プロセス



（2）本校研究における社会科

「総合的な学習の時間」では、「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける」ことが求められており、それらを通して身に付ける見方・考え方を「探究的な見方・考え方」と呼んでいる。社会科の資質・能力が探究のプロセスにおいて、どのように関連するのか考察することで、「探究的な活動」をより深化させることにつながると考えられる。

社会科と「総合的な学習の時間」の連携について研究した事例は、数多く見られる。山根（2001）は、「総合的な学習の時間」が新設されるにあたり、「社会科は本来、総合的な学習の性格を色濃く持っており、今回の学習指導要領の改訂（平成10年版）によって、社会科が初期

社会科のもっていた総合的性格を回復しようとしている」と述べ、戦後の日本で社会科教育の中核的な方法として位置付けられた問題解決学習と身に付けさせたい資質・能力の合致を示唆している³。また、富田（2020）では、基礎的・基本的な学習事項を社会科で学習し、探究的な内容を総合的な学習の時間で取り扱う合科的な学習過程の構築も試みられ、郷土学習において親和性のある実践となったことも報告されている。

社会科と「総合的な学習の時間」の目標を比較すると、両者の類似点が多く見られる（表1）。國原（2018）は、「見方・考え方を働かせる」「課題を追究し解決する」「情報収集・整理・分析・まとめる」「表現できる」ことや、「社会や生活かの中から課題を立てる」ことに共通点を見出している⁵。また、社会科で目標とされている「多面的・多角的考察」や「公民としての資質・能力」は、情報の整理・分析や、社会に参画しようとする態度との関連性が深いと考えられる。

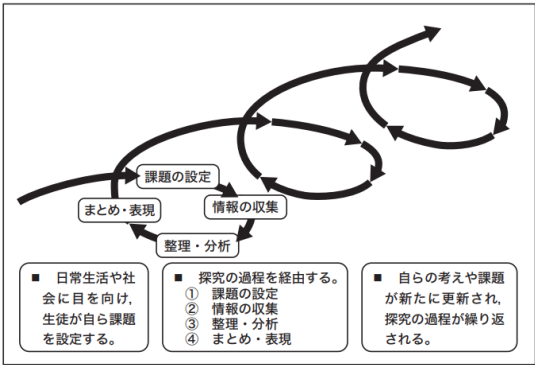
表 1 総合的な学習の時間と社会科の目標の比較

	【目標】
総合的な学習の時間	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習の良さを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
社会科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次の通り育成すること。

以上の事から、社会科と「総合的な学習の時間」ともに、探究のプロセス（図1）を構成する「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の4つの要素が重要視されていることが明らかになった。

探究学習においては、図2のような4つの探究のフェーズを何度も繰り返し、より高められていくというのが、一般的な見方だが、社会科においては、4つのフェーズについて、単元を通じて行うものの、次の単元との連続性を持たせることに困難さを感じている。また、新たに自発的な疑問や問題意識を生み出し、自分ごとと捉えられるような仕組み作りに課題があると考えられる。

図 2 探究における生徒の学習の姿



2. 探究的な活動（創造デザイン科）と教科等の関わりについて

（1）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

社会科と「総合的な学習の時間」を比較すると、探究のプロセスを学習の手順として重要視している点で、共通性を見出すことができた。社会科では、教科の見方・考え方を生かし、問題の解決を目指すのに対し、「総合的な学習の時間」では、各教科等における見方・考え方を学習者の必要に応じ、総合的に活用するといった点で、違いが見られる。

社会科では、探究のプロセスを生徒が主体的に繰り返すことができる取り組みをすることで、探究的な活動においても、社会科で獲得した資質や能力を応用させることができると考えた。また、生徒が主体的に探究しようとしている姿として表2のような生徒を想定した。

表2 主体的に探究しようとしている姿

学習内容について自ら深める姿	単元で学習したことを基に比較する姿
・大単元や小単元で学習した内容から、新たに疑問に思ったことや問題を発見し、自ら追究しようとする姿。	・小単元で学んだ内容を基に、次の単元との共通点や特色を比較・分析しようとする姿。

そのため、主体的な探究を促す取り組みとして、次の3点に関わって実践を行なう。

- | |
|----------------------------|
| ① 探究のプロセス「情報の収集」に関わる実践 |
| ② 探究のプロセス「情報の整理・分析」に関わる実践 |
| ③ 探究のプロセス「探究のまとめ・表現」に関わる実践 |

①では、教科書など文章から読み取る力はおおむね身に付いている。今後、グラフや写真などから読み取ったり、知りたい内容について、必要な情報をどこから収集すれば良いのかを考え判断したりする活動を通して、適切に「情報を収集」する力が高まると期待される。

②では、資料や情報を整理・分析することを通して、生徒自身が新たな疑問や問題を発見することをねらいとしている。また、協働的な学習などの活動形態を工夫することで、多面的・多角的な思考を促すことも期待される。

③では、単元の振り返りやレポートなどを通して学習内容をまとめ、学習したことを論理的に説明できる能力や生徒の興味関心を広げることをねらいとした。

また、学年によって段階的に探究のプロセスを身に付けることを目的とし、1年生では「情報の収集」と「情報の整理・分析」に関わる実践を行い、2・3年生では「情報の整理・分析」と「探究のまとめ・表現」に関わる実践を重点的に行う。

(2) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

第一学年

第一学年では、社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象に関わる必要な情報を収集、整理・分析することで、基礎的知識を身につけ、理解を深めることができるよう授業を進めている。

また、習得した社会的知識を活用して複数の国や地域、または時代などを比較して考察することで、新たな疑問・課題設定へとつなげようとする態度の育成を図りたいと考えている。

①「情報の収集」に関わる実践

・調べ学習を基にした教え合い

地理的分野の「世界の各地の人々の生活と環境」の単元では、各気候帯の特徴やその地域に暮らす人々の生活について、班ごとに一つの気候帯を調べてスライドにまとめ、そのスライドを基に相互に教え合う授業を行った。調べる項目を、気候の特徴・人々の衣食住・その他、と指定することで必要な情報を取捨選択する様子が見られた(図3)。また、気候と人々の暮らしを関連付けて理解を深めていた。

図3 調べ学習のワークシート

1年:地理 世界の各地の人々の生活と環境					
世界の人々はどんな暮らしをしているのだろう					
気候帯	帯	帯	帯	帯	帯
気候					
特徴	一年の大半が雪や氷でおおわれる。冬は寒さが厳しい。夏は気温が上がり、雨が多い。冬は雪が降り、木が雪に覆われる。	日本よりも雨が多い。冬は寒くない。夏は暑い。冬は雪が降り、木が雪に覆われる。	日本よりも雨が多い。冬は寒くない。夏は暑い。冬は雪が降り、木が雪に覆われる。	一年を通じて気温が高い。冬は寒くない。夏は暑い。冬は雪が降り、木が雪に覆われる。	一年を通じて気温が高い。冬は寒くない。夏は暑い。冬は雪が降り、木が雪に覆われる。
衣					
食					
住					

また、個人で調べた内容を班で共有することで自分では収集できなかった情報に気付いたり、複数の情報を関連付けて理解しようとしたりする姿も多く見られた。スライド作成時には、大まかな内容や特に強調したい内容をスライドに取り入れ、その詳細については口頭で説明するなど、相手に伝わりやすくするためにどの情報をどのように説明するかを、選択・整理してスライドを仕上げていた(図4)。

各班一人ずつ集まって、作成したスライドを基に説明しあった後には、質疑応答の時間をとり、生徒同士でさらに学習内容を深める姿が見られた。

図4 生徒作成スライド

住 〜家〜

- 屋根 木の支柱とヤシの葉などでできている。
- 壁がない

☆この造りは風通しがよく気温が上がる屋間でも涼しく過ごすことができる。→このことからこの地域の気温は暑いことがわかる。

🌿家の中はいつも清潔

②「探求のまとめ・表現」に関わる実践

・レポートの作成

地理的分野、歴史的分野ともに、学習した内容について図や表にまとめるレポートの作成を行った。既習の学習内容について、特定の範囲に偏ること無く、複数の単元を関連付けて図や表を用いてまとめ、知識の整理や理解を深めようと努力する姿が多く見られた。

しかし、教科書や資料集の内容の羅列にとどまってしまう生徒も多く、必要な情報の整理やどの情報を関連付けて比較するかなどについては、未だ課題が見られた。

・今後の学習活動の課題と工夫

先述のレポート作成時に見られたように、必要となる情報の整理や精選、その分析については未だ課題が見られるのが現状である。地理的分野、歴史的分野ともに、小単元の学習が知識の定着のみにとどまるのではなく、既習の小単元との関連・比較を計画的に行い、その共通点や相違点から新たな疑問・課題へとつなげられるような授業展開を考えていきたい。

第二学年

第二学年では、社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象の意味や意義などについて、生徒が課題を解決しようとする態度を養うことができるように次のことを意識して授業を進めている。

① 「情報の整理・分析」に関わる実践

・生徒が作成したスライドによる授業

地理的分野の「日本の地域的特色と地方区分」の単元では、単元を通して生徒が調べた情報をもとにスライドを作成し、発表を行う活動を行った。導入の活動では、「日本には、なぜさまざまな地域的特色があるのか」という単元を貫く課題についての予想を立てた後、1班5名で8班作り、班の中でさらに役割分担を行った。2回目以降の授業では、生徒が個人で教科書や資料集、図書、インターネットなどの情報をもとに整理・分析し、最終的に班でスライドにまとめたものをクラス全体へ発表した(図5)。各班の発表の際には、質疑応答の時間を設けた。活発な質疑応答がされたことで、生徒同士でさらに学習内容を深める姿が見られた。

図5 生徒作成スライド

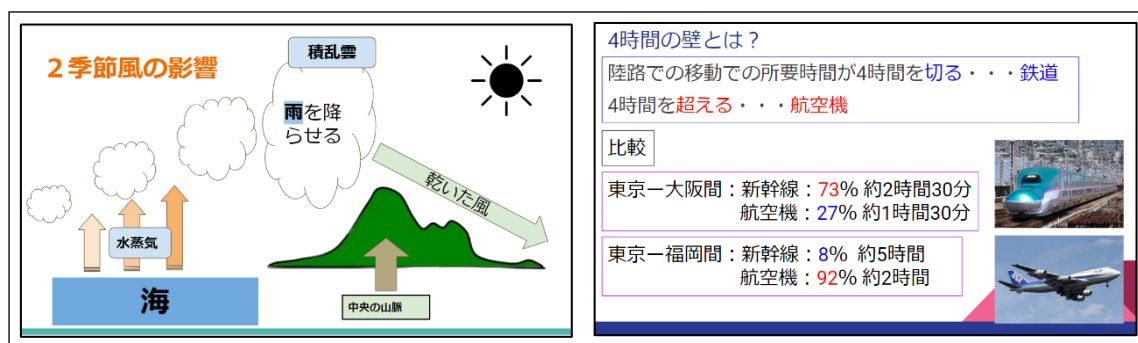


図6 振り返りシート（前半）

単元名〔 九州地方 〕		教科書 P185～196	
1. 【学習課題】学習課題を確認しよう。			
九州地方では、なぜ自然環境の影響が大きい中で、産業や生活・文化が発達してきたのか？			
2. 【予想】学習課題に対する答えを予想しよう。			
3. 【学習の振り返り】毎時間の学習活動について振り返りましょう。			
学習内容	日付	自己評価 A・B・C	振り返り
1 九州地方をながめて			
2 自然環境に適応する人々の工夫			

図7 振り返りシート（後半）

4. 【単元のまとめ】			
5. 【単元の振り返り】これまでの学習を振り返って自己評価をしましょう。			
総合評価 A・B・C		【 ▼ 】	
6. 【今後に向けて】学習したことを、今後の学習や生活にどのように生かしたいかを書こう。			

② 「探究のまとめ・表現」に関わる実践

・振り返りシートの活用

地理的分野、歴史的分野ともに、単元の導入で、単元を貫く課題を設定し、単元で扱う課題を把握し、予想や仮説を立てることで課題解決の見通しをもてるようにしている。

毎時間の授業では、生徒自ら教科書や資料集やインターネットを使って調べ、授業の終末で課題の解決に向けて考察し、学習してきたことを振り返る時間を設けている(図6)。

単元のまとめの学習では、既習内容を活かし、個人やグループで考察し、最終的には個人で結論を出す活動を行っている。単元の課題の予想・毎時間の振り返り・単元のまとめ・単元の振り返り・今後学びたいことについて、一枚のシートにまとめ、学びの変容が分かるようにしている(図7)。

・探究のまとめの活動の工夫

図 8 日本の諸地域の学習におけるミニプロジェクト

7 地方区分	特色や課題をとらえる視点	単元のまとめ：ミニプロジェクト（仮）
九州地方	自然環境	地域の良さを 3 分で紹介しよう
中国・四国地方	交通・通信	町おこし・村おこしコンテスト
近畿地方	人口	ミニテレビ番組を作ろう
中部地方	産業	産業を紹介するポスターを作ろう
関東地方	交通・通信	海外の人へ関東を紹介する WEB ページ
東北地方	生活・文化	「新しい」伝統工芸を考えよう
北海道地方	自然環境	エコツアーを考えよう

地理的分野の「日本の諸地域」では、各地域の単元のまとめの活動として、各地域にある課題の解決にアプローチするミニプロジェクトを行った。例えば「中国・四国地方」の単位では、過疎・過密問題について学習を深めた後、実際に行われている地域住民の立場になって、町おこし・村おこしのためのアイデアを考えるという活動を行った(図 8)。各地方のミニプロジェクトの経験を活かして、石川県に関する課題を把握し、解決に向かうためのアイデアを考え、パンフレット・試作品・WEB ページをなどの手段によって表現する活動を行う予定である。

第三学年

第三学年では、社会的な見方・考え方を働かせながら、学習した内容を短くまとめると共に、関心のある事象や疑問に感じた内容を自ら深める姿の育成を目指し、取組を行う。

① 「情報の整理・分析」に関わる実践

・振り返りシートの活用

振り返りシートを活用し 1 週間の学習した内容についてまとめている。

図 9 振り返りシート（前半）

社会科の振り返りシート(6月12～6月16日)	
記入日	氏名
1週間の学習後の振り返り(疑問に思ったことや分かったこと、興味のあることを自分の言葉で表しましょう)	
1週間の学習後の振り返り(疑問に思ったことや分かったこと、興味のあることを自分の言葉で表しましょう)	

前半部分では、1 週間の学習を振り返り生徒の言葉でまとめ直すことを通して、情報を自分の理解しやすい形に整理することを目的とした(図 9)。3 年生になってからは、前年度よりも授業時数が多くなり授業での情報の密度も高まることから、主体的に情報を整理する機会が必要だと考えられる。また、授業の中で疑問に感じたことや、さらに深く追究したいと感じたことについて書き溜めておくことも振り返りシートでは意図している。

後半部分では，1週間の授業への取り組み方を自己評価するシートにしている（図10）。

「集中して授業に取り組めた。」
「自分に合う学習方法を工夫して取り組めた。」
「いろいろな人の考えを聞き，自分の考えを深めた。」
「いろいろな人に考えを伝えるようにした。」の4項目で振り返り，具体的な場面の記述や数字による5段階で評価している。

図10 振り返りシート（後半）

今回の学習への取り組みを自己評価しよう。		
	授業中の様子を具体的に書きましょう。	五段階で評価しよう。(1～5)
集中して授業に取り組めた		
自分に合う学習方法を工夫して取り組めた		
いろいろな人の考えを聞き自分の考えを深めた		
いろいろな人に考えを伝えるようにした		
		合計点

② 「探究のまとめ・表現」に関わる実践

・レポートによる探究活動

単元ごとにレポート課題を設定し，生徒の興味関心に応じた探究（調べ学習）の機会を設けている。レポート課題では，教師から与えられた共通テーマと自由にテーマを設定することのできる課題の2つで構成されている（表3）。

表3 レポート課題のテーマ例

共通課題	自由課題
日本が戦争を拡大していった理由と，多くの犠牲を出してしまった理由を説明してみよう。	第一次世界大戦～第二次世界大戦の終戦を通して，疑問に感じたことを追究しよう。
「歴史から学ぶ」と言われるが，今後の日本人たちが学ぶべき歴史とは何か。理由も合わせて説明しよう。	中学1年生～3年生まで学習した歴史を通して，疑問に感じたことを追究しよう。

共通課題では，単元や歴史の学習全体を振り返り，多様な情報を整理し分析することを通して，生徒が考えたことを表現することを目的としている。特に第二次世界大戦や太平洋戦争については，多面的・多角的な視点から考察を深めるとともに，情報を精選し説明する姿の育成を目指した。

自由課題については，自分なりの仮説や予想を立ててから調べ学習を行うことと，レポートの最後に感想を書くことを要件として取り組ませた。

表4 生徒が設定した自由課題のテーマと仮説の例

生徒が設定した自由課題のテーマ	仮説
生徒A ソ連はなぜ世界恐慌の影響を受けなかったのか。5か年計画にも不満が出てきたのはなぜか。	5カ年輕は国家が生産を管理していたからではないか。 モノカルチャー経済のように，調子の良い産業だけでなく，満遍なく産業を発展させたからではないか。
生徒B 日本が抱く原爆へのイメージと，海外の国が抱く原爆のイメージでは差があるのか。	日本では，原爆は「恐ろしいもの」海外では，「恐ろしいもの」と「戦争を終わらせた力」のように二分化しているのではないか。

生徒Cの振り返りシートの記述（一部抜粋）	生徒Cのレポート内容
・国民の支持が軍部へと傾いていったのは、 ①政党政治には金がかかる②政党政治では不景気を解消できない③満州進出を期待していたという3つのポイントがある。 ・ソ連とアメリカは大国だから、日中戦争で力が削れていた日本は対立を避けたかったのかなと思いました。それとは反対に、日中戦争の中陸軍は中国へ資源や物資を現地調達するために、東南アジアへ進撃していきました。その結果、アメリカからABCD包囲網という経済制裁を喰らいました。このとき日独伊三国同盟を結んでいなかったら日本は今頃どうなっていたのかなと疑問に思いました。	自由課題のテーマ 「第二次世界大戦で日本が勝つにはどうすればよかったのか。」 仮説 「同盟国側ではなく、アメリカ側についたら日本に有利なように戦争が進んでいたのではないか。」

生徒Cの記述からは、学習した内容を3つのポイントに整理し直し、理解を深めている様子が見て取れる。五・一五事件と二・二六事件を比較し、軍部の暴走という共通点だけでなく、発端となった動機の違いに目を向けて分析する記述も認められた。また、同盟国側に立って第二次世界大戦を迎えた日本の情勢に疑問をもち、同盟を結んだ意図や各国からの経済制裁の影響について深めようとしていることが読み取れる。

生徒Cは、前述した振り返りシートで感じていた疑問を探究課題に設定し、調べ学習を行っていた。軍部中心の日本の当時の情勢であれば、同盟国側への仲間入りを選択してしまうことに一定の理解を示しつつも、探究を通して国内にはアメリカとの開戦を避けようとする動きがあったことに気付くことができた。また、一部の権力者によって政治が決定されていくことが危険であり、様々な意見を広く取り入れることのできる政治をすることが、日本が戦争を回避する道であったと結論付けた。

多くの生徒が振り返りシートを通じて、「情報の整理・分析」に取り組む様子が見られた。一方で、疑問に思ったことを書き溜めるという生徒は、少数であるが複数人認めることができた。このことから、授業で学んだ内容を整理することにおいて、振り返りシートは一定の成果が得られたと言えるだろう。しかし、新たな問いを見出し探究しようとする姿勢を育むには、さらなる声かけや取組への工夫が必要だと考えられる。

また、レポートについては、生徒の目線で疑問に感じたことを追究する機会となり、教科書では理解しきれない部分や自らの興味関心に向き合う課題提示になったと言える。生徒の関心事に対して個人で探究課題を設定し、情報をまとめ表現する姿を見ることができた。

3. 参考文献

- 1) 文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現』（株式会社アイフィス 2022）
- 2) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編』東山書房2022
- 3) 山根栄次「社会科と「総合的な学習の時間」との連携の可能性」（『三重大学教育実践総合セン

ター紀要 21号』2001 9-16頁)

- 4) 富田俊幸「カリキュラム・マネジメントによる社会科と総合的な学習の時間における合科的な郷土学習ー持続可能な社会の創り手としての資質・能力の視点での一考察ー」(『学校教育研究 No. 35』2020)
- 5) 國原幸一郎「中学校の「総合的な学習の時間」における探究学習ー社会科と比較してー」(『名古屋学院大学教職センター年報 第2号』2018 35-54頁)

1 年 単元名「人々の生活と環境」 単元計画（8 時間）

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3 観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	■世界各地の気候やそこに暮らす人々の生活について大観する。 ①世界各地の住居とその周りに生育する植物などから、その地域の気候や人々の生活の様子を考える。 ②緯度と気温の関連に着目し、世界の気候区分とその特色をつかむ。	○景観や住居の写真から、その地域の気候や自然の特色、人々の生活の特徴を読み取ることができる。【思】 ○緯度を基に世界の気候区分について大観しようとしている。【態】
	2	■世界の気候区分とその気候の特徴について捉える。 ①世界の気候について、気温と降水量を元にその特徴を捉える。 ②世界の気候の特徴を、雨温図から読み取る。	○雨温図を活用して世界の気候区分とその特色を理解している。【知】
	3	■世界の各気候帯に暮らす人々の生活について、班ごとに調べる。 ①5 つの気候帯に暮らす人々の特色について、班ごとに分担して調べる。	○世界の人々の生活の特色について、わかりやすく説明するために必要な情報を収集しようとしている。【態】
	4	■世界の各気候帯に暮らす人々の生活について、各自が調べた内容をもとに、班でスライドにまとめる。 ①個人で調べた内容について、班で共有する。 ②その気候帯での人々の「衣食住」について、分担してスライドを作成する。	○世界の人々の生活の特色について、調べた内容をもとに考察している。【思】
	5	■世界の各気候帯に暮らす人々の生活について、スライドをもとに相互に説明する。 ①各班から 1 人ずつ集まり、班で作成したスライドをもとに相互に説明する。 ②説明を聞いて、その特徴をワークシートに整理する	○世界の各気候帯に暮らす人々の生活の特色やその違いを適切に読み取り、理解している。【知】
	6	■アンデス地方に暮らす人々の生活の様子から、高知の気候の特色や人々の生活の特色を読み取る。 ①雨温図から高山気候の特徴について読み取る。 ②アンデス地方の人々の、標高により異なる気温に適した生活の特色について理解する。	○雨温図から高山気候の特徴を読み取り、そこに暮らす人々の特色について理解することができる。【知】
	7	■世界の宗教はどのように起こり、世界各地にどのように分布しているのかを読み取り、理解する。 ①宗教の種類やその信仰されている地域について大観する。 ②宗教と人々の生活の結びつきについて捉える。	○分布図や写真からそれぞれの宗教の特色を読み取り理解している。【知】
	8	■世界の各気候帯の人々の生活について、レポートにまとめる。	○世界各地の人々の生活と環境について、その場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、与えたりしていることを理解している。【知】

2年 単元名「日本の地域的特色と地域区分」単元計画（10時間）

次	時	学習内容・ねらい（■）・主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	■本単元の概要や目的を知る。 ①日本のイメージを個人でマインドマップに書く。 ②グループで共有し、マインドマップに追加する。 ③単元の探究課題「日本には、なぜさまざまな地域的特色があるのか」について予想する。 ④スライドの作成と発表までの予定を知る。 ⑤自分の担当するテーマでグループを作り、役割分担を行う。	・マインドマップには地理的内容に関わらず自由に思いつくものを書くように伝える。 ・生徒が担当する内容を決める際には、生徒が興味を持ち、調べたいテーマを選べるようにする。 ○日本の地域的特色と地方区分について、今後の学習に関心を持ち、問題の解決に向けた予想や見通しをもっている。【態】
2	2	■自分の担当するテーマについて、教科書や資料集、インターネットを活用して調べる。 ①それぞれが担当する内容をグループで確認する。 ②教科書や資料集、学習用端末を用いてテーマに沿った内容を個人で調べる。	・発表に用いることのできる写真やグラフや分布図などの資料、参考にできるウェブサイトなどを、予め生徒に示しておく。 ○写真、地図、グラフ、主題図などから適切に読み取り、自分の担当するテーマに沿った情報を収集することができる。【知】
	3	■調べた内容を、スライドにまとめる。 ①自分の担当の進捗状況をグループで確認する。 ②自分の担当のスライド作りを進める。 ③自分の担当した場所をグループ内で発表する ④グループごとに発表の内容を調整する。	・個人で作成する、スライドの内容をグループのメンバーや教師が常に確認できるように、共同編集機能を用いて作成する。 ○個人で調べた内容から、情報を適切に取捨選択し、発表用のスライドにキーワードでまとめることができている。【思】
	4	■グループで発表内容の調整を行う。 ①グループごとに、自分のグループのテーマに沿ったまとめを考え、スライドの最後に記入する。 ②グループごとに発表練習を行う。	○日本の地域的特色をそれぞれのグループが、自分たちの担当するテーマに沿って、説明することができる。【思】
3	5	■発表1〔1班地形（山・川）／2班地形（平地・海）〕 ①地形（山・川）、地形（平地・海）について調べたグループの発表を聞く。 ②学習課題「日本の地形にはどのような特色があり、地域によってどのような違いがあるか」に対するまとめを書く。 ③ワークシートの問題に取り組み、日本の主な山・川・平野の位置を確認する。	・ワークシートにメモを取りながら発表を聞くように伝える。 ・各班の発表の後に質疑応答の時間をとり、質問を積極的にするように促す。 ○日本の自然環境に関する特色を主題図や分布図から読み取り、日本の山地・山脈、川、平地、海岸の分布や特色、海洋に囲まれた国土の特色について理解している。【知】
	6	■発表2〔3班気候／4班自然災害〕 ①気候、自然災害について調べたグループの発表を聞く。 ②学習課題「日本の気候にはどのような特色があり、自然災害への取り組みはどのように行われているか」に対するまとめを書く。 ③ワークシートの問題に取り組み、日本の6つの気候の特色をそれぞれ雨温図から読み取る。	・ワークシートにメモを取りながら発表を聞くように伝える。 ・各班の発表の後に質疑応答の時間をとり、質問を積極的にするように促す。 ○写真やグラフや図などの資料から日本の気候の特色について読み取り、日本の多様な自然災害と防災への取り組みについて理解している。【知】

	7	■発表3〔5班人口／6班交通・通信〕 ①人口、交通・通信について調べたグループの発表を聞く。 ②学習課題「日本の人口の分布や構成にはどのような特色があり、各地でどのような結びつきが見られるか」に対するまとめを書く。 ③ワークシートの問題に取り組み、日本の人口のピラミッドから、日本の人口構成の変化について読み取る。	・ワークシートにメモを取りながら発表を聞くように伝える。 ・各班の発表の後に質疑応答の時間をとり、質問を積極的にするように促す。 ○日本の人口の分布や構成について、人口ピラミッドの変化のグラフなどから読み取り、日本の交通網の整備による人や物の移動の実態について理解している。【知】
	8	■発表4〔7班資源・エネルギー／8班産業〕 ①資源・エネルギー、産業について調べたグループの発表を聞く。 ②学習課題「日本に必要な資源やエネルギーはどのように確保され、産業はどのような発展しているか。」に対するまとめを書く。 ③ワークシートの問題に取り組み、日本の農業や工業の特色を分布図やグラフから読み取る。	・ワークシートにメモを取りながら発表を聞くように伝える。 ・各班の発表の後に質疑応答の時間をとり、質問を積極的にするように促す。 ○日本の資源・エネルギー利用の現状や課題、日本の産業の特色や変化について、様々な資料から適切に読み取り、理解している。【知】
4	9	■日本の地域区分の仕方を理解する。 ①日本の地域は、行政単位、同じような性質・まとめ、地域のつながりによって区分されることを理解する。 ②個人で「自然環境」「人口」「資源・エネルギー」「交通・通信」の視点のうち1つを選び、地域を区分した資料の読み取りを行う。 ③4人のグループを作り、それぞれの資料から読み取ることができた内容を他の資料を調べた人たちに伝える。	・1つの資料ではなく、複数の資料を扱い、比較することによって、それぞれの地域のつながりや、共通点・差異について考えられるようにする。 ○「自然環境」「人口」「資源・エネルギー」「交通・通信」について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。【思】
5	10	■単元のまとめを行う。 ①単元の学習をふまえて日本の自然環境、人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信に関わるキーワードを出す。 ②キーワードを思考ツール（フィッシュボーン）を用いて整理する。 ③日本の特色を正しく理解しないまま帰国した外国人に、誤解を解くための手紙を書く活動を行う。 ④単元の探究課題「日本には、なぜさまざまな地域的特色があるのか」のまとめを個人で書く。 ⑤単元の振り返りを書く。	・各グループの発表を聞きながら書いたメモをもとに、キーワードを抜き出すように指示を出す。 ・日本の特色について、本単元の見方・考え方である、「どのような地域にどのように分布しているか」に着目して考えるように伝える。 ○日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギー、交通・通信という観点から整理し、説明している。【思】
後日		■社会科研究 自然環境（地形・気候）、防災・減災、人口分布や増減、交通・通信など他地域との結びつき、エネルギー事情や産業などをテーマに、身近な地域についての研究を行う。	○身近な地域について、日本の地域的特色をふまえて適切な調査テーマを設定し、自らの学習を振り返りながら粘り強く考察することを通して主体的に追究しようとする態度を示している。【態】

3年 単元名「第二次世界大戦の惨禍」 単元計画（5時間）

次	時	学習内容・ねらい等（■）	評価規準（○）3観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	■ 第二次世界大戦期の日本の様子を教科書に描かれた絵から読み取る。 ①第二次世界大戦期の都市の様子を描いた想像図を見て、大正～昭和初期と比較してどのような変化があるのか見つける。	・ どの変化や絵に着目したのかを、スクリーンを通じてクラス全体に共有する。 ○戦争が激化する日本での人々の様子の変化を読み取ろうとしている。【態】
	2	■第二次世界大戦が開戦してからの、日本と各国の関係とその変化について理解させる。 ①日独伊三国同盟の締結に至るヨーロッパや日本の情勢の変化を捉える。 ②同盟国と連合国の対立や ABCD 包囲網による輸出制限の影響について仲間と考察する。	○第二次世界大戦が開戦してからの、日本と各国の関係とその変化について理解する。【知】 ○日本とアメリカの対立が深まっていった理由を、各国との関係の変化や日本の軍事行動と関連付けて表現することができる。【思】
	3	■日本の植民地や占領下の地域で抗日運動が起こった理由を考えさせる。 ①日本軍の南進の背景や占領政策の様子について理解する。 ②占領下の地域で抗日運動と占領政策の実態の関わりについて仲間と考察する。	○占領下の国や地域で抗日運動が起こった理由を、日本が行った占領政策と関連付けて考察し、表現することができる。【思】
	4	■本土への空襲や沖縄への上陸が行われるようになった理由を考察し、適切に表現させる。 ①戦局が悪化していく中で、国民生活がどのような変化をしたのかを理解する。 ②富山大空襲の被災者による証言や、当時配られた空襲ビラを基に、どのような場所が空襲で狙われたのか読み取る。 ③ミッドウェー海戦の戦果を報じる新聞を基に、報道された内容と実際の戦果の違いを読み取り、なぜ実際とは異なる報道がされたのかを考察する。	○戦局が悪化したことにより、国民生活がどのように変化したのかを理解することができる。【知】 ○学童疎開や日本本土への空襲が行われるようになった背景を、太平洋上の島々の戦況に着目して考察できる。【思】
	5	■第二次世界大戦がもたらした惨禍に着目し、戦争の悲惨さについて考察させる。 ①日本がポツダム宣言を受諾するまでに、多くの犠牲者を生み出した空襲や原爆の投下について理解する。 ②原爆投下前と投下後の広島市の航空写真を対比し、爆心地の付近にはどのような施設があったのか読み取る。 ③戦争の学習を終えた感想や、国際平和に対して日本が果たすべき役割について自分の考えをまとめる。	・ ワークシートにメモを取りながら、動画や画像を見るように伝える。 ○広島、長崎への原爆投下の影響や被害の大きさを理解することができる。【知】 ○戦争の惨禍に着目させ、国際協調と平和の大切さについて主体的に考えようとしている。【態】

後 日	■社会科研究 教師から提示された共通課題と、生徒自身が課題を設定する自由課題のレポートに取り組ませる。 ①日本が戦争を拡大していった理由について、国際社会からの孤立や、軍部の台頭などの背景を踏まえてレポートにまとめる。 ②日本が戦争を通して多くの犠牲者を出すことになってしまった理由について、空襲の激化や戦局の悪化による暮らしの変化と結び付けてレポートにまとめる。 ③第一次世界大戦の始まり～第二次世界大戦の終結までの学習を通して、生徒が疑問に思ったことを追究してレポートにまとめる。	○2度の大戦を経験した日本や世界の様子について、各国の関係の変化をふまえながら適切な課題を設定し、粘り強く考察することを通して主体的に追究しようとしている。【態】
--------	---	--